

[参考事項]

新技術名： ナシに心腐れ症状を引き起こすフォモプシス属菌の果実感染時期

(平成10～12年)

研究機関名 果樹試験場天王分場
担 当 者 深谷雅子・高橋功

[要約]

ナシに心腐れ症状を引き起こす *Phomopsis* sp. は、‘幸水’の果実に主として5月下旬から7月下旬に感染する。

[ねらい]

本県のナシ栽培において、主力品種の‘幸水’に発生している心腐れ症状は、*Phomopsis* sp. によって引き起こされる病害で、その発生は近年増加傾向を示し、問題となっている。そこで、本症状の防除法を確立するために菌の果実への感染時期を捉え、防除時期を明らかにする。

[技術の内容・特徴]

- 1．心腐れ症状の伝染源となるナシの主幹や枝に形成された胴枯病の病斑には、5月下旬から9月上旬まで、*Phomopsis* sp. の柄胞子が形成され、降雨時に溢出した。柄胞子は、胞子と胞子の2種類が見られ、このうち病原性の有る胞子は、主に5月下旬から7月下旬まで認められた(表1)。
- 2．‘幸水’の花そうを開花前の5月始めに被袋し、その後、果実を8月上旬まで、約10日間隔で、自然条件下にさらし、発病の有無を調べた結果、5月中～下旬から7月下旬の期間に暴露した果実で、心腐れ症状が見られた(図1)。
- 3．心腐れ症状の果実から病原菌を分離した結果、*Phomopsis* sp. が検出され、果実の主要な感染時期は、5月下旬(落花期)から7月下旬(果実肥大期)であることが認められた。

[普及対象範囲]

県内のナシ栽培地域

[普及・参考上の留意事項]

- 1．落花後(5月下旬)から幼果期(6月下旬)にかけて多雨の年に発病が多い。
- 2．枝に形成された胴枯病の病斑が伝染源になるので、被害枝の切り取りや病斑部の削り取り等、伝染源の除去や塗布剤の処理等、胴枯病防除対策を実施する。

[具体的なデータ等]

表1 胴枯病菌(*Phomopsis* sp.)の柄孢子溢出時期(2000年)

調査時期 (月/日)	降雨日 (月/日)	降雨量 (mm)	柄孢子溢出の有無 ^a	
			孢子	孢子
5/9	5/8~9	23.0	-	-
5/14	5/12~14	13.0	-	-
5/17	5/15~16	0.5	-	-
5/22	5/21	3.0	+	+
5/29	5/28	7.5	+	+
6/10	6/9	7.5	+	+
6/15	6/14	2.5	+	+
6/25	6/24	6.5	+	+
7/4	6/27~7/3	80.5	+	+
7/14	7/8~13	49.0	+	+
7/20	7/16~19	32.5	+	+
7/27	7/22~26	30.0	+	+
8/3	8/1~2	3.0	-	+
8/12	8/11	19.0	-	+
8/25	8/24	2.5	-	+
9/7	9/1~6	37.5	-	+

a - : 溢出していない、+ : 溢出している

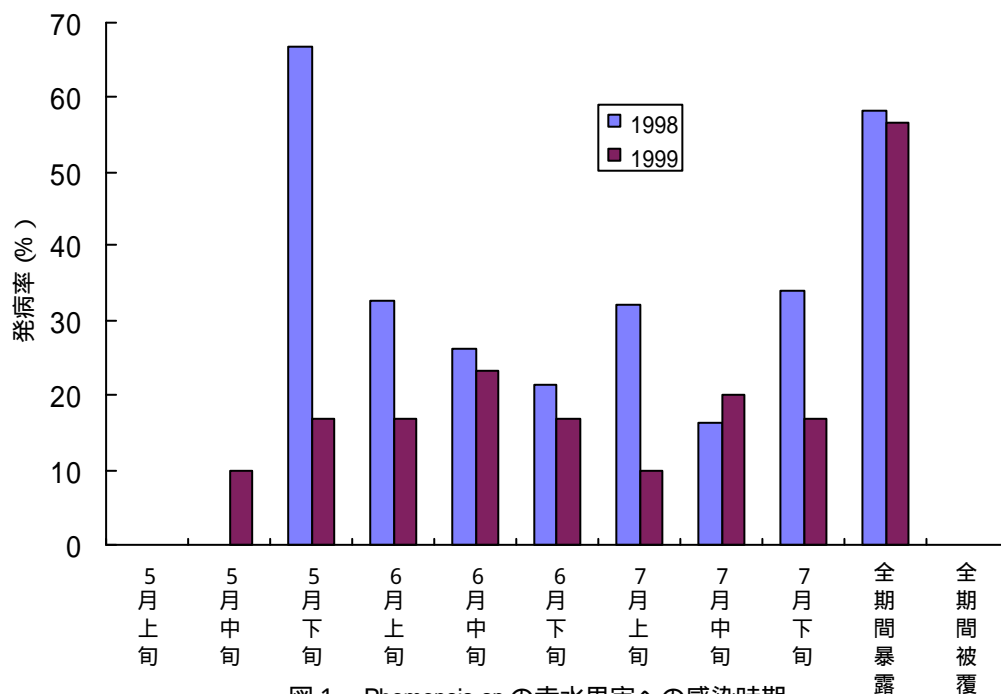


図1 *Phomopsis* sp.の幸水果実への感染時期

[発表文献等]

北日本病害虫研究会報(1999)Vol.50、同(2001) Vol.52投稿中